



事務局移転のお知らせと内線番号変更のご案内

菅生キャンパスリニューアルの一環として、ダイバーシティ・キャリア支援センターの事務所を移転しております。内線番号も併せて変更となっておりますので、お問い合わせの際はご注意ください。お問い合わせ先は以下の通りです。

【移転先】 東館1階(旧LSIメディエンス) 人事課内

【移転後の連絡先】 内線3952

2024年度

女性およびライフイベント（育児）中の研究者支援の取り組み

ダイバーシティ・キャリア支援センターでは、女性およびライフイベント中（小学校3年生までのお子さんの育児中）の研究者に対して、下記①-③の研究・論文作成支援及び研究業績を表彰する取り組みを行っております。

いずれの制度においても、女性研究者は育児の有無を問わず講師または助教(非常勤講師を除く、任期付助教を含む)の方が、男性研究者は講師または助教(非常勤講師を除く、任期付助教を含む)であり、小学校3年生までのお子さんを育児中の方が対象となっています。また、男女を問わず、産前産後休暇・育児休業・介護休業中の方も応募対象としています。(他諸条件があります。詳細は公募要項をご確認ください。)

- 【支援制度】
- ①ダイバーシティ研究助成金（1件当たり 40万円上限）
 - ②ダイバーシティ英語論文作成費助成制度（1論文あたり 5万円上限）
 - ③ダイバーシティ表彰(学術分野)〔賞状と副賞（5万円）授与〕



2024年度の①の採択者、③の受賞者は下記の通りです。

2024年度聖マリアンナ医科大学 ダイバーシティ研究助成金 採択者

氏名	所属	研究課題名	助成金額
大橋 充代 助教	解剖学(人体構造)	男性肥満2型糖尿病における低ゴナドトロピン性性腺機能低下症の発症機序解明	40万円
川越 康仁 助教	循環器内科学	院外心停止における人工知能に基づく緊急冠動脈造影適応判断支援の有益性の検証	30万円

2024年度聖マリアンナ医科大学 ダイバーシティ表彰(学術分野) 受賞者

氏名	所属	掲載雑誌	論文表題
小徳 のぞみ 助教	循環器内科学	EuroIntervention 2023;19(11):e891-e902	Preprocedural physiological assessment of coronary disease patterns to predict haemodynamic outcomes post-PCI
鷹尾 直誠 助教	脳神経内科学	Neurology Genetics 2024;10(1):e200108	Large-scale whole-genome analysis of HTLV-1-associated myelopathy identified hereditary spastic paraplegias
片山 皓太 助教	総合診療内科学	Journal of General and Family Medicine 2023;25(1):62-70	Association between mentorship and mental health among junior residents: A nationwide cross-sectional study in Japan

ダイバーシティ：性別やライフスタイル等に関わりなく、多様な個性が力を発揮することにより、組織として最大限の能力を発揮しようという考え方。

2024年度ダイバーシティ表彰(学術分野)授賞式

2024年10月16日(水)



2024年10月16日(水)に、医学部6階大講堂にて、ダイバーシティ表彰(学術分野)授賞式を執り行いました。

本制度は、女性研究者または育児(ライフイベント)中の研究者を支援し、学術分野における男女共同参画を推進することを目的とするものです(前ページ参照)。2024年度も、多数の応募者の中から優秀な論文を発表した方3名が選ばれました。

授賞式では、受賞者の小徳助教、鷹尾助教、片山助教へ、センター長である北川学長より表彰状と副賞(5万円)が授与されました。

後列: 左から医学教育文化部門 伊野特任教授(副センター長) / 脳神経内科学 山野主任教授 / 循環器内科学 明石主任教授(前副センター長、現西部病院院長) / 総合診療内科学 大平主任教授 / 予防医学 高田主任教授(女性医師・研究者支援部会長)

前列: 左から北川学長(センター長) / 脳神経内科学 鷹尾助教 / 循環器内科学 小徳助教 / 総合診療内科学 片山助教 / 加藤医学部長



開式の挨拶
高田女性医師・研究者支援部会長



祝辞
北川学長・センター長



閉式の挨拶
加藤医学部長



小徳助教



鷹尾助教



片山助教

ダイバーシティ研究助成金2023年度採択者講演について

2024年10月25日(金)～11月21日(木)にオンデマンド形式で開催された第86回医学会学術集会において、ダイバーシティ研究助成金制度の2023年度採択者に研究成果を発表していただきました。講演内容は以下の通りです。※採択者3名のうち、1名は10月12日(土)に行った講演を録画配信しました。

佐藤 利行 助教 生化学(化学)

顕微鏡的多発血管炎のバイオマーカー候補AC13の臨床検査法の確立

梅本 久美子 講師 臨床腫瘍学

膵癌患者における腫瘍検体(組織、細胞診)と血液検体を用いたKRAS変異測定 of 臨床性能を評価する研究

チェン・サンディ 助教 難病治療研究センター

セレノニン添加に伴う、凍結融解マウス卵子におけるミトコンドリアの酸化ストレス反応への影響を検証

大学院キャリア教育 2024年12月14日(土)

大学院総合教育科目Ⅲの講義では、鈴木(黒川)真奈絵指導教授(女性医師・研究者支援部会員)が「研究者としての生涯構想」を担当しております。2024年度は12月14日(土)にオンデマンド形式で行われました。

講義では、医師のキャリア形成のタイムコースとその中の大学院の位置づけ、医師が研究に携わる利点、どのようにして生涯研究を続けていくか等についてお話があった後、医師歴20～30年で実際に研究を継続しているロールモデルが数例紹介されました。

その後、各大学院生より、1. 大学院卒業後、どんな研究をしたいか、2. 研究のため留学する場合、(1)どこの大学・研究機関に留学し、(2)どんな研究をしたいか、3. 留学後、生涯に渡り、(1)どのようなスタイルで、(2)どんな研究をしていきたいか、について、レポートによる報告がされました。大学院生の皆さんは、各自の希望・方向性を元に明確な計画を打ち出しており、聖マリアンナ医科大学大学院から若い研究者が次々と巣立っていくのが非常に楽しみとなっております。

医学部2年生キャリア教育 2024年12月14日(土)

2024年12月14日(土) 1限から3限の医学部第2学年「実践医学」の授業で、「卒前キャリア教育」を開講しました。本授業では、全国の医学部卒前教育で男女共同参画に関する講義・ワークを実践されている蓮沼直子先生(広島大学医学部附属医学教育センター教授)に毎年講師を依頼しております。

授業は伊野特任教授(副センター長)の挨拶から始まりました。北川学長(センター長)による基調講演では、学長ご自身が積み上げてこられたキャリアや取り組んでこられた活動、途上国との交流や将来の医療などについてのお話がありました。その後、蓮沼先生の司会・進行により、「子供の朝の発熱」・「女性外科医の海外留学」のどちらかのケースについて、複数のグループに分かれ、発生しうる問題やその対処法等の発表を行いました。発表前に行われたグループ討論では、男女問わず学生の皆さんが真剣に取り組み、活発に意見を出し合う姿が見られました。

また、若手医師のロールモデルとして、玉城ゆり子先生(川崎市立多摩病院・麻酔学)にご講演いただきました。臨床・研究と妊娠・出産・育児を両立していくにあたって直面した困難など、先生ご自身の経験についてお話がありました。慢性的にマンパワー不足である医療現場における、「お互いが支え合うという意識を持って働くこと」、「周囲のサポートに感謝すること」、「自分にできることを精一杯やること」の重要性について言及されました。



出席者からのアンケート結果では、内容について「かなり満足・満足」と感じた方が約66%、興味について「極めて適当・適当」と感じた方が約72%いらっしゃいました。また、様々な先輩医師の体験談を聞きたい、より多くの事例を考えて将来に備えたいといった意見が多数ありました。キャリアと生活の両立の難しさを感じた方や、自分のキャリアをより具体的に考える必要があると感じた方が多くいらしたようです。学生の皆さんにとって、これまで漠然としていた将来のキャリアを考えるための有意義な時間となったことが窺えました。

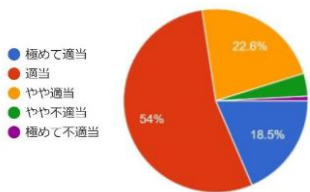
内容の満足度はいかがでしたか？

124件の回答



あなたの興味に対して適当でしたか？

124件の回答



～ 受講者アンケート回答より(抜粋)～

●医師のキャリアを考えてみてどう感じましたか。

対応しなければならない困難な状況が多いという現実には驚愕した／出産や子育てとキャリア形成を両立することの難しさを改めて感じた／共働きの場合課題が多いと感じた／まだキャリアプランを立てられていないため漠然としていたが、少し現実味を感じた／自分の中で医師のキャリアがより鮮明になった／今後のキャリアについて考える良い機会になった／自分のキャリアの選択肢が広がったと感じた／パートナー、自分の両親や義両親、職場の人たちなど、多くの人の協力が必要なが分かった／自分は妊娠や家族よりも自分のキャリアばかりを考えていたことに気づいた／真剣に今後の人生を考えさせられた／あつという間に訪れる未来だと思うので、今から考えるべき内容だと感じた

●今後のキャリア教育に期待することは何ですか。

より多くの先輩がどのようなキャリアを辿ってきたのか知りたい(開業、留学等)／男性目線のキャリアについても考えるテーマがあるとよい／今後も蓮沼先生に講義をしてもらいたい／現実の問題が起こった際に、先輩の医師らがどういった対応をしたのかを知りたい／今回のキャリア教育の講義やディスカッションは自分にはない考えを取り入れるいい機会だったので、このような機会がさらに増えるとよい

医学部4年生キャリア教育 2024年12月18日(水)

医学部4年生の臨床実習オリエンテーションにおいて、小森学主任教授(耳鼻咽喉科学)に「マインド形成とキャリア形成」という演題でご講演いただきました。小森主任教授は、大学院に進学せず医局に入局し、独学で臨床研究などを行ってきたという経歴をお持ちです。

本講演では、医師のキャリア形成に焦点が当てられ、小森主任教授が2022年に本学の主任教授になられるまでに積み上げてこられた経験についてお話がありました。また、AIをはじめとする技術の進化といった日本の現状や、臨床研修医の実情、医局のメリット・デメリット、診療科別に見た医師数、医師の働き方改革などについても詳しいご説明がありました。厚生労働省のデータや先生ご自身の経験を踏まえた現実的な話が多く、医学部生たちが将来のキャリアパスを考える上で多くの示唆を得られる内容となっていました。

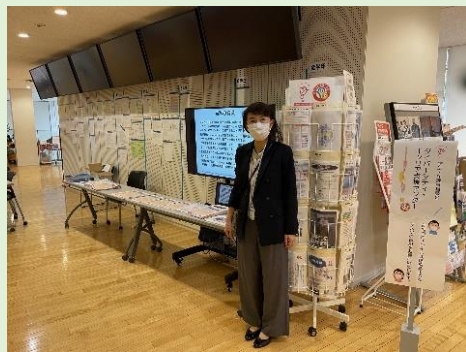
最後には「ワークアズライフ(*1)」という考え方が紹介され、自分自身が医師として楽しみ興味を持てる診療科を選択すること、やりがいや目標を持つことの大切さが伝えられました。医師としてのキャリアの方向性を決めるためのヒントに富んだ講演内容となっており、学生たちにとって本講演は少なからず今後の進路選択の一助となることでしょう。

***1 ワークアズライフ** … 仕事とプライベートを一体化させて線引きしない考え方。「ワークライフバランス」は仕事とプライベートを二分化して調和を図る考え方であるが、仕事とプライベートの線引きがされすぎていると、プライベートを満喫するほど労働から逃げ出したくなることもある。それに対し、「ワークアズライフ」は仕事を生活の一部とし、ストレス管理をすることで毎日を充実させるという考え方。例えば、専門性を高めるなどして得意だと思える業務を仕事にすることで、労働に時間を費やしているという意識が薄くなってストレスが低下し、モチベーションを維持することができる。実現させるには普段からやりがいを感じられるような支援・環境づくりが大切となる。

医学部保護者会におけるキャリアパス相談会 2024年10月26日(土)

女性医師・研究者支援部会では、2024年10月26日(土)に行われた医学部保護者会の懇親会に合わせて「学生・保護者相談会」を開催しました。教育棟1階マリオン前にブースを設置し、明石主任教授(前副センター長)、高田主任教授(部会長)、大岡教授(部会員)、奥田講師(予防医学)が保護者の方からのご質問にお答えしました。

当センターの活動紹介のために、保育・介護支援ガイドブックやNews Letter、大学院パンフレット、各診療科の資料などを相談ブースに用意いたしました。大型モニターでもスライドショーを流して各診療科を紹介したところ、保護者の方が立ち止まり、資料を手にとって持ち帰られ、多くの方に関心を持っていただくことができました。



川崎市女性医師の会 設立記念講演会 2024年11月1日(金)

「川崎市女性医師の会」の設立を記念し、2024年11月1日(金)に川崎市医師会館(川崎市中原区)にて講演会が開かれ、伊野特任教授(副センター長)が「聖マリアンナ医科大学における女性医師のキャリアアップ支援体制について～女性医師支援からダイバーシティ&インクルージョンを目指して～」と題して講演を行いました。

本講演では、ダイバーシティ・キャリア支援センターの組織について説明があった他、男女共同参画・ダイバーシティをより一層推進するために本学が行っている取り組みが紹介されました。

ダイバーシティ拡充に向けての取り組みの具体的な事例として、医学部や大学院におけるキャリア教育や、女性研究者の裾野を広げるための研究・論文作成助成制度や表彰制度などが挙げられました。また、出産や育児といったライフイベントへの支援として、院内保育園やベビーシッター利用補助など本学で利用できる制度が紹介されました。

多彩な背景を持つ本学の女性医師・研究者が、ライフイベントを理由にキャリアをあきらめることなく成長できる労働環境を整備するためには、全学的にダイバーシティに対する意識の改革を行い、価値観を共有する必要があります。教職員全体が互いの立場を尊重し、各々が個性や能力を発揮できる環境づくりのため、今後ともダイバーシティ・キャリア支援センターの活動へのご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

2024年11月1日(金)
川崎市医師会講演

**聖マリアンナ医科大学における
女性医師のキャリアアップ支援体制について**

ダイバーシティ・キャリア支援センター
副センター長 伊野美幸

通称名【サン・オリバ】
・サン: ①(スペイン語・イタリア語でSan)キリスト教用語で、聖人のこと
②(sun)太陽
・オリバ(オリーブ イタリヤ語でOlive):
①ノアの箱舟 オリーブの木は平和を表すもの
②ギリシャ神話 オリーブは「聖なる木」

2016年5月
【内閣府】
子育てサポート企業
「くるみん」認定
次世代育成支援対策推進法(第13条)

2018年2月
【神奈川県】
子育て支援事業者
「かながわ子育て応援団」認定
神奈川県子ども・子育て支援推進条例

2015年4月
聖マリアンナ医科大学
男女共同参画
キャリア支援センター
【サン・オリバ】設置

2024年7月
【神奈川県】
D&I取組推進団体
「D&Iかながわメンバーズ」登録

神奈川県内の医学系大学では
「初」の認定

●ダイバーシティ・キャリア支援センター●

電話044-977-8111(内線3952)、メール(ご相談・ご意見): career@marianna-u.ac.jp